

大阪狭山市内遺跡群 発掘調査概要報告書13



平成15年(2003年) 3月

大阪狭山市教育委員会

大阪狭山市内遺跡群 発掘調査概要報告書13

平成15年(2003年)3月

大阪狭山市教育委員会

序 文

大阪狭山市内には大阪府の史跡名勝に指定されております狭山池をはじめとして、数多くの文化財があります。狭山池ではダム化工事に伴う発掘調査によって多くの遺跡、遺構が出土し、東柵・中柵等が大阪府の指定文化財となりました。平成13年3月にオープンした大阪府立狭山池博物館では、この発掘成果を中心に展示し、多くの方々にご観覧いただいております。

このような調査と併行しまして、本市の教育委員会では平成2年度より個人住宅などの建築に伴う発掘調査を継続的に実施してまいりました。本年度は狭山藩陣屋跡、陶邑窯跡群などの遺跡で調査を実施し、貴重な成果を得ることができました。本書はこれらの調査成果をまとめたものです。本書が地域の歴史を考える上での一助となれば幸いです。

調査にあたりましては、建築主の皆様ならびに周辺の皆様に多大なご協力を賜りました。厚く御礼申し上げます。

今後とも本市文化財保護行政に対するご理解とご支援のほどを、よろしくお願ひ申し上げます。

平成15年(2003年)3月

大阪狭山市教育委員会

教育長 澤田宗和

例　　言

1. 本書は国庫の補助を受け、大阪狭山市教育委員会が平成14年度事業として大阪狭山市内で実施した個人住宅建築等に伴う埋蔵文化財の緊急発掘調査の結果をまとめた概要報告書である。
2. 本書に収録した調査は以下の通りである。
 - 1 狹山藩陣屋跡 02-03区、02-04区、02-05区、02-08区
 - 2 陶邑窯跡群 陶器山42号窯(MT42)立会
3. 発掘調査は大阪狭山市教育委員会生涯学習推進課植田隆司が担当した。現地調査においては、島山文夫、米澤孝成、古西健治ら各氏のご協力を得た。
4. 内業調査については植田隆司が担当し、若宮美佐、橋本和美、笹岡裕里子、扶川陽子、水本良子ら各氏のご協力を得た。近世遺物については市川秀之氏のご教示を得た。また、遺物の撮影は有限会社阿南写真工房に依頼した。
5. 本書の執筆・編集は植田隆司が担当した。

本　文　目　次

(頁)

序 文	大阪狭山市教育委員会教育長 澤田宗和
例 言	
はじめ 1
1. 狹山藩陣屋跡	02-03区 3
	02-04区 6
	02-05区 12
	02-08区 12
2. 陶邑窯跡群	陶器山42号窯(MT42) 18
まとめ 25
報告書抄録 26

はじめに

大阪狭山市内では1960年代以降に急激な人口増加が生じ、南部の丘陵地を中心に住宅開発が進んだ。1980年代以降はそのころの勢いは衰えたものの、小規模な開発は盛んである。また、近年では1960年代～1970年代に新築された住宅の建て替えの時期が到来しており、これらに伴う埋蔵文化財の発掘調査は微増の傾向にある。ことにここ数年は狭山藩陣屋跡の中心部において歩道の設置事業が進められており、その周辺において住居の移転や建て替えが頻繁に行われている。これにともなう発掘調査が本市における発掘調査の中心になっている。

大阪狭山市内の遺跡分布および地形分類は図1のとおりである。大阪狭山市は西側の泉北丘陵と東側の羽曳野丘陵にはさまれた場所に位置するが、この両丘陵の間に幾筋かの南北方向の谷筋が走っている。これらの谷筋からは旧石器時代・縄文時代の打製石器がいくつか発見されている。

弥生時代の遺跡としては市域南部の高地において弥生時代後期の高地性集落が検出された菜萸木遺跡がわずかに知られるのみである。

古墳時代以降の本市域内における人々の活動の痕跡は、近年の発掘調査成果によって、明確に認識可能なものとなっている。旧天野川流域の沖積低地に立地する池尻遺跡では、溝・土坑・焼土坑など住居跡となる可能性がある遺構とともに庄内式の壺・壺と布留式の壺が出土している。旧天野川右岸の中位段丘上に立地する狭山藩陣屋跡では、自然の谷地形の底部分からTK47型式の須恵器が出土しており、古墳時代中期の集落が中位段丘上に存在した可能性が高い。古墳時代中期以後、泉北丘陵を中心とした地域に陶邑窯跡群が形成された。5世紀後葉から6世紀前葉までの本市域内における窯の造営は、陶器山丘陵およびその北方に連続する高位段丘のみに限定される。発掘調査が行われた窯跡としては、TK47型式～MT15型式の須恵器を生産した陶器山252号窯(MT252・山本1号窯)や陶器山15号窯(MT15)がある。6世紀後半の陶邑窯跡群における生産活動はより活発なものとなり、その分布域は東方の中位段丘へと拡大する。TK43型式～TK209型式の須恵器を生産する窯跡には、太満池北窯・太満池南窯・狭山池2号窯・狭山池3号窯・池尻新池南窯・今熊1号窯がある。7世紀に入ると本市域内における須恵器窯の数は減少するが、狭山池主谷周辺での操業は継続し、東池尻1号窯・狭山池1号窯・狭山池4号窯・ひとつ池西窯などが確認されている。

7世紀前葉、狭山池主谷を横断する全長約300m・全高約6mの堤を築くことによって旧天野川(西除川)と三屋川の流れを堰き止め、ダム式のため池である狭山池が造られた。狭山池における発掘調査では、中樋・東樋・西樋・木製枠工など、各時代の灌漑遺構が検出された。旧天野川両岸の中位段丘上には、7世紀後半の東野廃寺、中世城館の池尻城跡、中世集落の庄司庵遺跡、古代～中世の寺院跡である狭山神社遺跡、近世城館の狭山藩陣屋跡など、古代から近世にかけての諸遺跡が成立している。

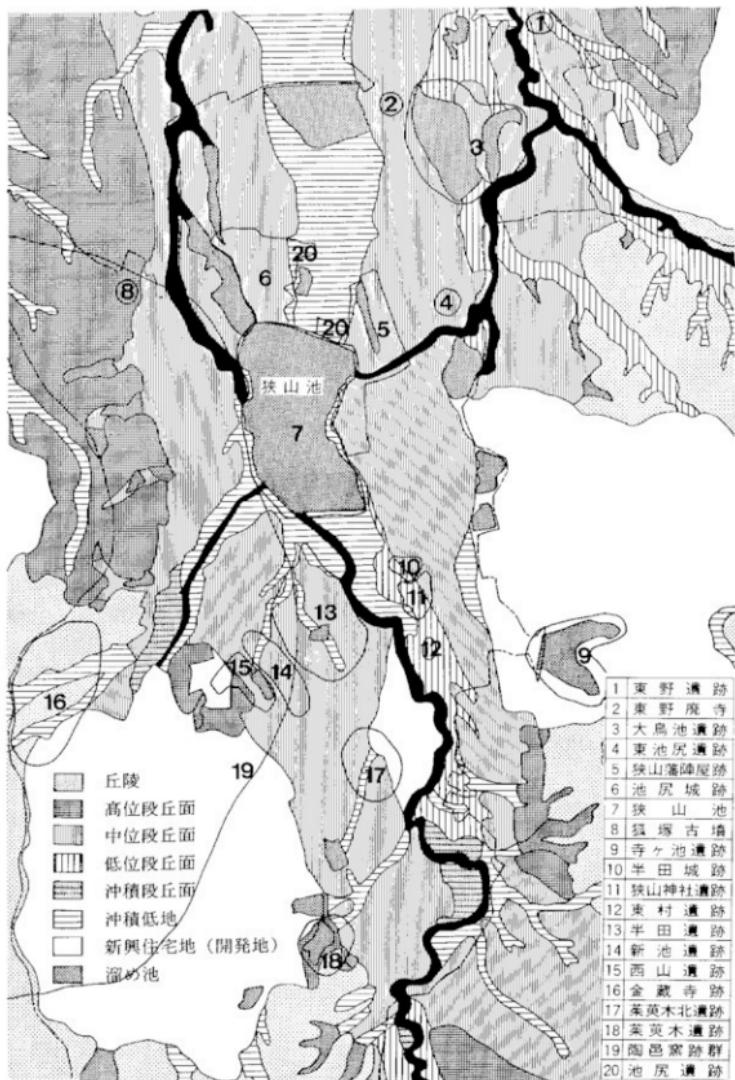


図1 大阪狭山市域の遺跡分布と地形分類

1. 狹山藩陣屋跡

狹山藩陣屋跡は、狹山池東側に広がる中位段丘上に立地する近世城館跡である。豊臣秀吉によって小田原城を落とされた戦国大名北条氏の末裔が、近世初期にこの地に陣屋を開き、以後明治維新にいたるまでの間、一貫して陣屋が営まれていた。陣屋は北側の上屋敷と南側の下屋敷にわかかれているが、御殿は上屋敷のもっとも北側に設けられ、その周辺には上層の武士の屋敷が建ち、上屋敷の外周部や下屋敷には下層の武士が居住していた。また、下屋敷は狹山池に面した景勝の地であり、藩主の別邸も建てられていた。

狹山藩陣屋跡では1987年以降、大阪府教育委員会や大阪狭山市教育委員会によって発掘調査が継続されている。いずれも小規模な発掘調査ではあるが、その成果を組み合わせることによって陣屋の構造が明らかになりつつある。これまでの調査では陣屋が建築された近世初期を週る遺構・遺物はほとんど検出されていない。上屋敷についてはほぼ全面にわたって上下2層の遺構面が確認されており、出土遺物からみて上層遺構面は天明2(1782)年の大火以後の遺構面、下層遺構面はそれ以前の遺構面と考えられる。個々の遺構の性格は多様であるが、遺物を多く含むのは家屋の周辺と思われる箇所に掘削された土坑が中心である。おそらくは火災などの跡でこうした土坑に廃品が投棄されたのであろう。出土遺物は日常的な生活用品を中心であるが、硯、水滴などの文房具の出土が比較的多いのは武士の生活の一端を示すものであろう。産地は肥前や堺など国内のものが中心であるがまれに外国産のものがみられる。また下屋敷では発掘調査の件数が少ないが、家臣の屋敷地や、馬場と思われる広大な平坦面を形成するための整地の跡が確認されている。

02-03区

本調査区は狹山4丁目2494-2、2494-3の一部に所在する。住宅の建築に伴って発掘調査を実施した。予定される建築物の規模に合わせて南北約4m・東西約4.6mの調査区を設定し、機械および人力で掘削をおこなった。本調査区では上下2層の遺構面を確認した。

上層遺構は現地表面下約40cmの深さに存在する。地表から深さ25cmまでは整地層が続き、その直下で淡灰褐色砂質土の上層遺構包含層があらわれる。包含層の厚さは約15cm。上層遺構の各遺構の埋土もこの層と同じ土質であった。上層遺構面では、溝5条・土坑6箇所・ピット7箇所を検出した。それぞれは複雑に切り合っている。調査区東端で調査区を縱断して南北にのびる溝1は幅約30cm・深さ約8cmを測る。溝1の埋土中からは、磁器小椀1点が出土している。溝1の西側では、土坑2と溝5を検出した。土坑2は短径0.5m・長径0.9m以上の平面梢円形で、深さは13cm。南北にのびる溝5は長さ2.5m以上・幅0.3m・深さ約5cm。これらの

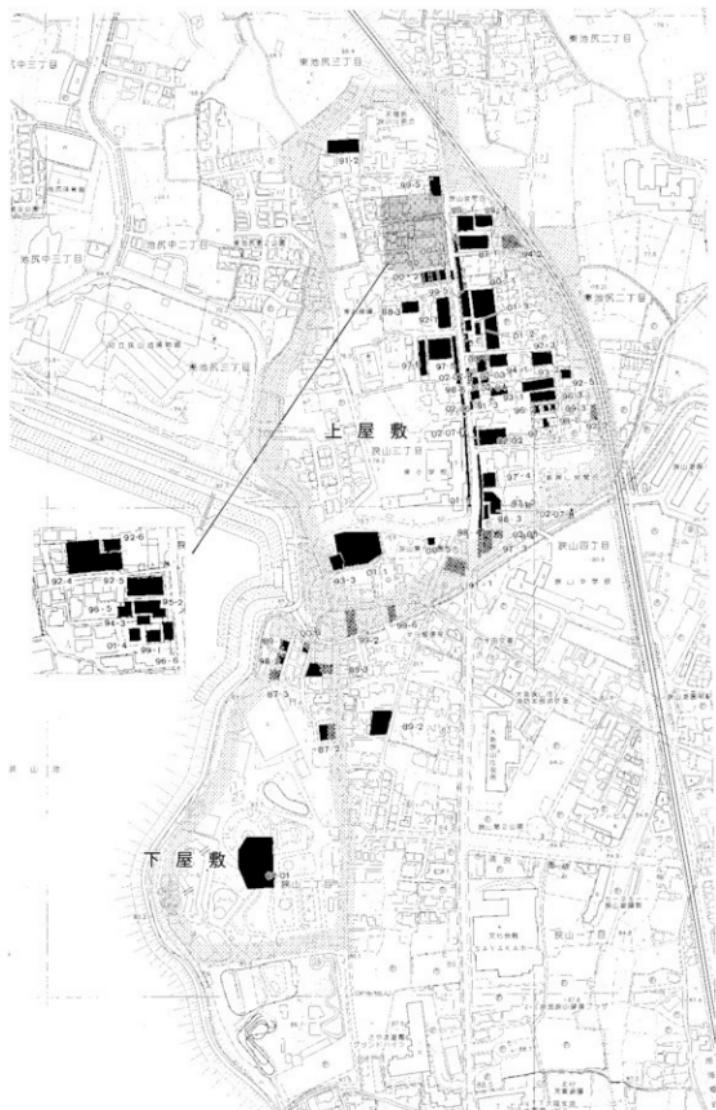


図2 狹山藩陣屋跡における既存の調査箇所 ($S = 1/5,000$)



図3 狹山藩陣屋跡調査区位置図

西側で調査区を縦断して南北にのびる溝2は最大幅0.7m・深さ11cmを測る。溝2の埋土中からは、土師質皿・仏飯器・磁器小椀・炻器擂鉢・土師質焰烙などが出土した。溝2と直交して溝2に切られている溝4は、現存長2m・幅0.45m・深さ9cmを測る。溝2の西側でこれと平行に南北にのびる溝3はその北側を溝4に切られている。現存長2.9m・最大幅0.8m・深さ10cmを測る。溝3の埋土中からは、磁器中椀1点が出土している。溝3の西側では、端部を溝3に切られた土坑5を検出した。長径2m・短径1m・深さ10cmを測る。土坑5の埋土中から陶器小椀1点が出土している。溝4の北側では土坑4を検出した。長径0.9m以上・短径0.5m・深さ19cmで、その南端は溝4に切られている。調査区南西隅では径1m以上・深さ15cmを測る土坑7を検出し、調査区西北隅では径0.7m以上・深さ5cmの土坑8を検出した。土坑8の埋土中からは土師質土人形1点が出土している。

下層遺構は上層遺構面の18cm下に位置する地山面を遺構面とする。上層遺構のベース層である黄褐色粘土層は、下層遺構面の包含層となっており、この掘削の過程で磁器中皿・磁器中椀・磁器水滴・炻器擂鉢などが出土した。下層遺構面では土坑2箇所・杭痕3箇所を検出した。調査区北端から約0.7m、調査区西端から0.4mの地点にある土坑1は径1.2m・深さ15cmを測る。埋土中からは土師質焰烙1点が出土した。土坑1の0.9m東側では径0.7m・深さ20cmを測る土坑2を検出した。この埋土中からは土師質土鉢1点が出土した。また、調査区南西側では、調査区西端から約0.9mの地点で南北に3つ並ぶ杭痕を検出した。杭痕の径は22cmで、深さは13cm～22cmである。

当該調査区は狭山藩陣屋跡上屋敷を南北に貫く大手筋に面しているため、陣屋成立以後、何度も繰り返して土地利用がおこなわれていたものと思われる。下層遺構面で検出された杭痕は概ね南北方向に並んでおり、大手筋と屋敷地を画する、あるいは屋敷地内の土地利用のしかたによる何らかの柵などの遮蔽構造物を形成していた杭列ではないかと推定される。また、上層遺構面においても南北方向にのびる溝が4条、東西方向にのびる溝が1条検出されている。当該地点の屋敷地内において、土地利用の形態が何度も変更されたために形成された遺構であると想定される。

02-04区

本調査区は狭山4丁目2494-3に所在する。住宅の建築に伴って発掘調査を実施した。予定される建築物の規模に合わせて南北約3.6m・東西約4.5mの調査区を設定し、機械および人力で掘削をおこなった。本調査区は02-03区から約5m東方に位置するが、02-03区とは異なって上層遺構面のみが確認された。

上層遺構は現地表面下約40cmの深さに存在する。地表から深さ25cmまでは整地層が続き、その直下で灰褐色砂質土の上層遺構包含層があらわれる。包含層の厚さは約10cm。上層遺構の各遺構の埋土もこの層と同じ土質であった。この包含層およびその上層の整地層からは、磁器小椀・磁器中椀・磁器小杯・磁器小皿・磁器灰吹・陶器中壺・焰烙などが出土している。

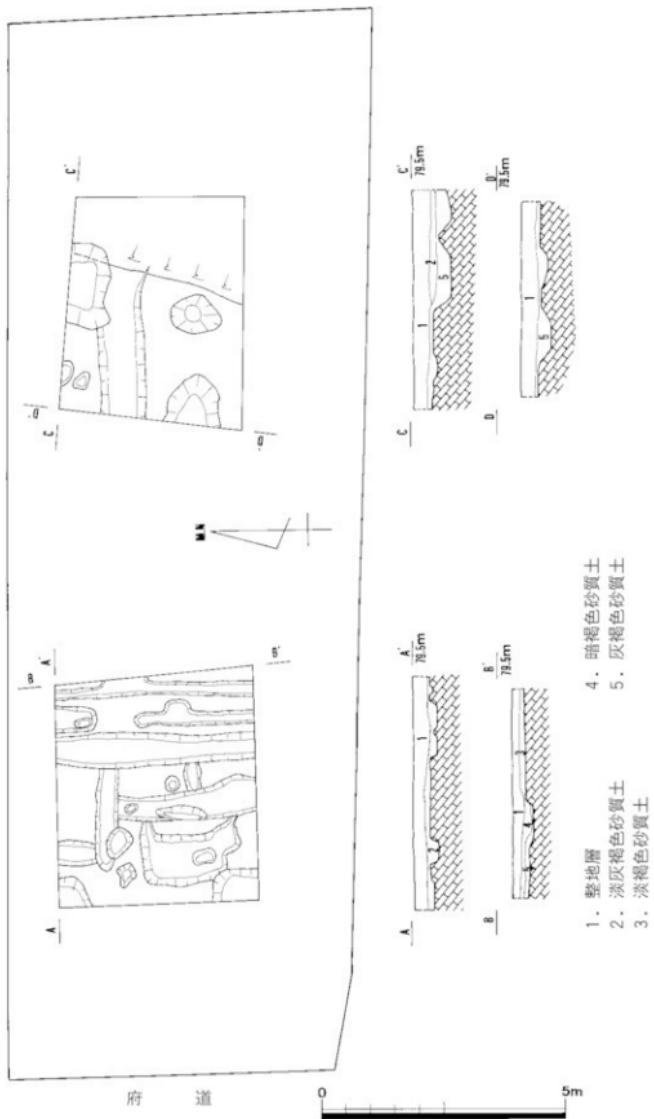


図4 狹山藩陣屋跡02—03区・02—04区遺構平面面図

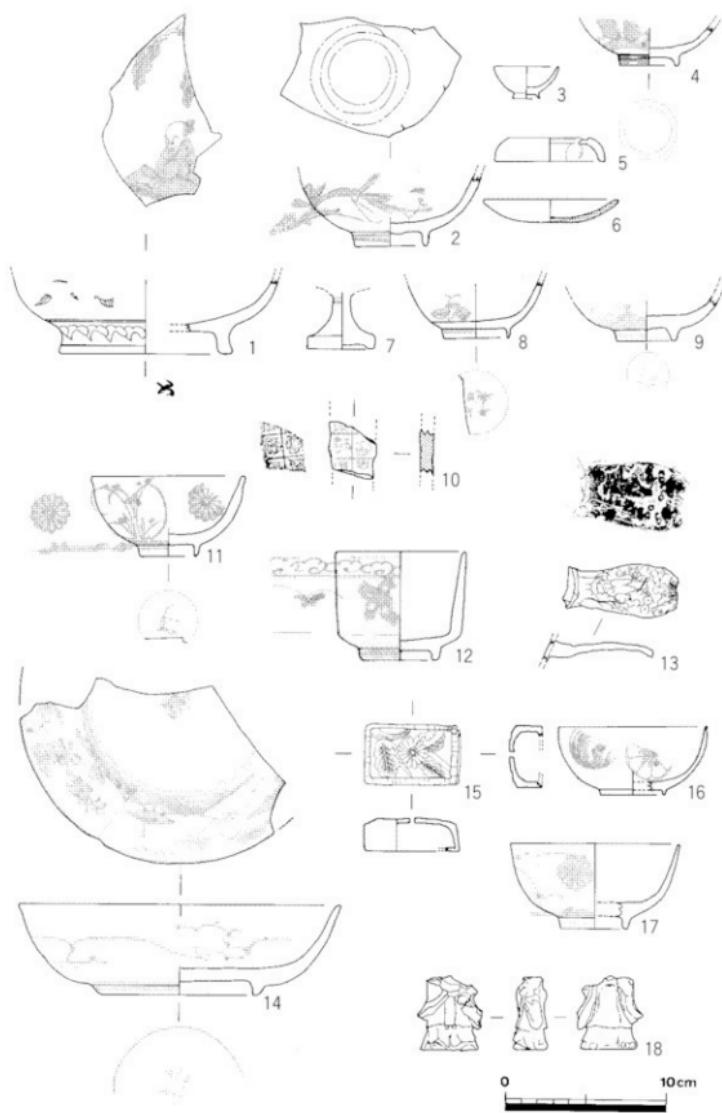


図5 狹山藩陣屋跡02—03区出土遺物（1）

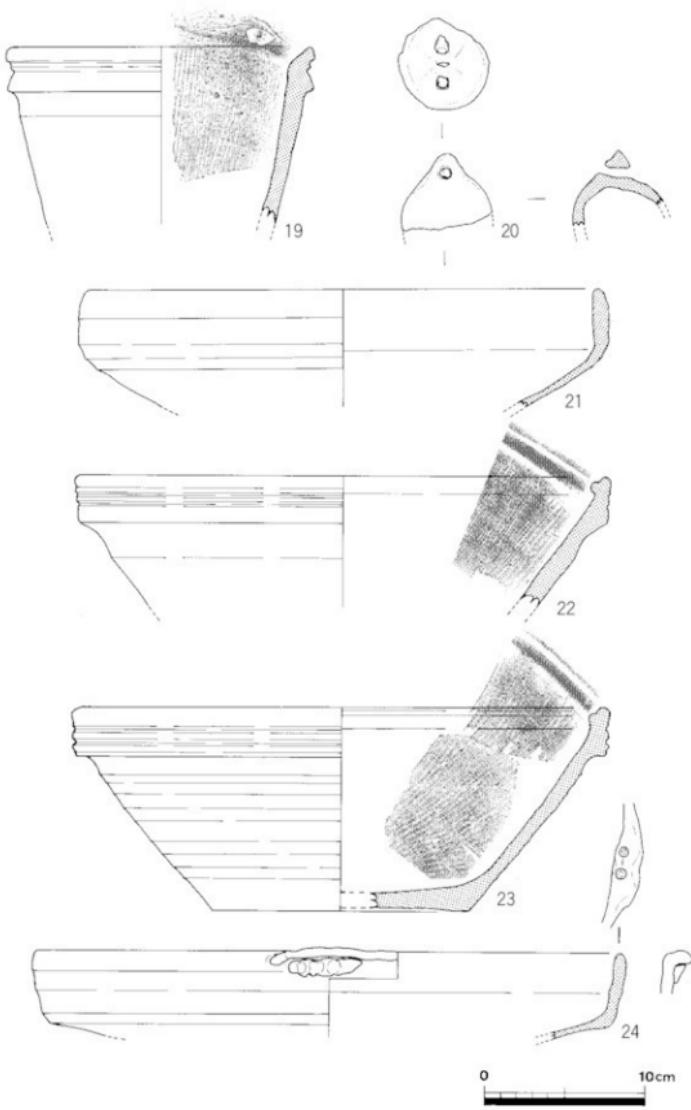


図6 狹山藩陣屋跡02—03区出土遺物（2）

遺構は、溝1条・土坑3箇所・ピット2箇所を検出した。なお、調査区の東端は搅乱坑によって遺構が欠失している。調査区中央よりやや北側で東西にのびる溝1は、その東端を土坑3および搅乱坑によって切られている。確認できた長さは3.0mで、幅0.95m・深さ15cmを測る。溝1の埋土中からは土師質皿・磁器小皿が出土している。溝1の南側、調査区西端では土坑1を検出した。径1.2m以上・深さ25cmを測る。土坑1の埋土中からは、磁器小椀・磁器小皿・土師質皿が出土した。土坑1の東側では土坑2を検出した。長径1.0m・短径0.8m・深さ33cmを測る。土坑2の埋土中からは軒丸瓦および、土坑1から出土した磁器小椀と接合する破片が出土した。調査区北端で溝1を切って掘られている土坑3は、径1.7m以上・深さ37cmを測る。埋土中からは磁器小皿・炻器擂鉢が出土している。

02-03区において下層遺構面を形成していた地山面は地表下約60cmの深さであらわれる。上層遺構の記録保存をおこなったのち、機械および人力で掘削をおこない、下層遺構の有無を精査したが、遺構とおぼしきものはまったく確認できなかった。

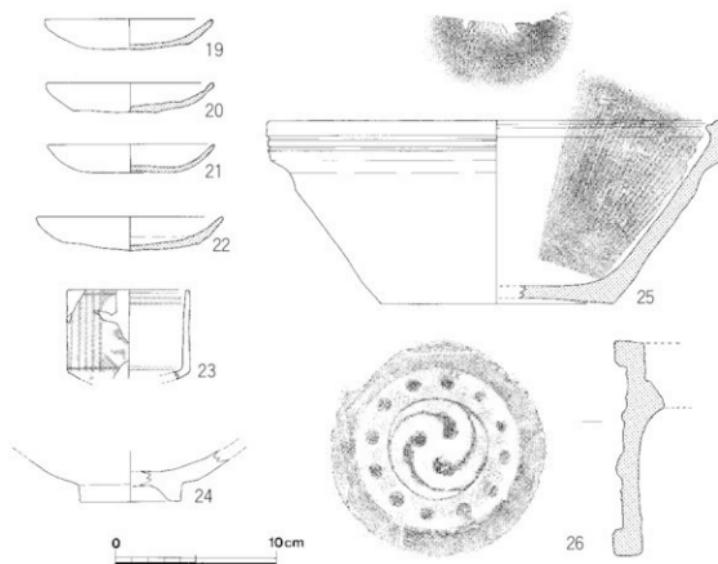


図7 狹山藩陣屋跡02—04区出土遺物（1）

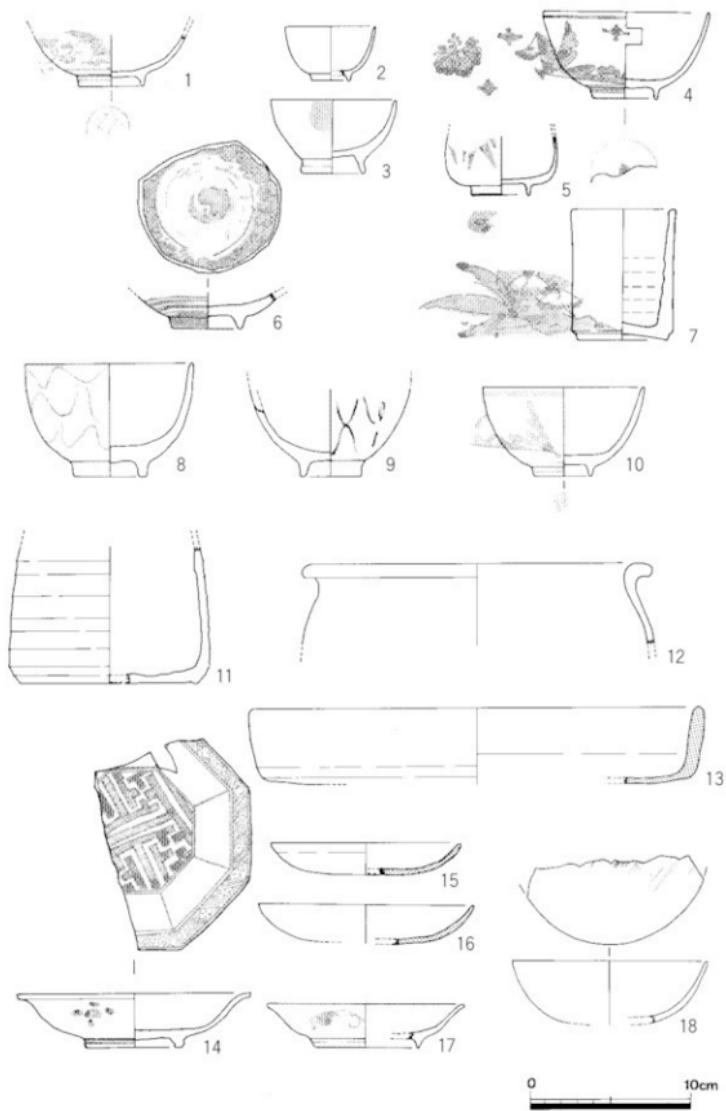


図8 狹山藩陣屋跡02—04区出土遺物（2）

02-05区

本調査区は狹山4丁目2435-7に所在する。住宅の建築に伴って発掘調査を実施した。予定される建築物の範囲内において南北約2.5m・東西約4.8mの調査区を設定し、機械および人力で掘削をおこなった。本調査区は狹山藩陣屋跡上屋敷の南端、東除川の左岸に位置する。

遺構は現地表面下約20cmの深さに存在する。地表から深さ10cm～15cmまでは整地層が続き、その直下で淡黄褐色シルト層があらわれる。この層の厚さは約8cm。この層が各遺構内の埋土となっていた。この直下に淡黄色シルトの地山面があり、この面が遺構面となっていた。遺構は径1m前後の土坑が5、径40cmの土坑が1、杭痕が3検出された。土坑の深さは4cm～13cm、杭痕の深さは2cm～6cmである。

遺構およびその上層からは、出土遺物等は検出されなかった。これらの遺構の成立時期は不明であるが、おそらくは狹山藩陣屋跡の上層遺構に相当するものと考えられよう。

02-08区

本調査区は狹山4丁目2449-8に所在する。住宅の建築に伴って発掘調査を実施した。予定される建築物の規模に合わせて南北約5.0m・東西約3.5mの範囲で調査区を設定し、機械および人力で掘削をおこなった。地表下約30cm～40cmの深さで暗灰色の有機物層が確認されたため、この直下で遺構面が存在するものと考え、遺構検出を試みたが、この層の直下にも近現代の遺物を包含した整地層が存在した。さらに掘削を実施すれば、おそらくは地表下1m程度の深さまで地山面が確認されるものと想定されるが、予定されている建築物の基礎による掘削はそれに及ばないため、これ以上の掘削は実施せずに調査を完了した。

本調査区内の整地層中からは、磁器小椀・磁器中椀・磁器盃・陶器土瓶蓋などが出土した。

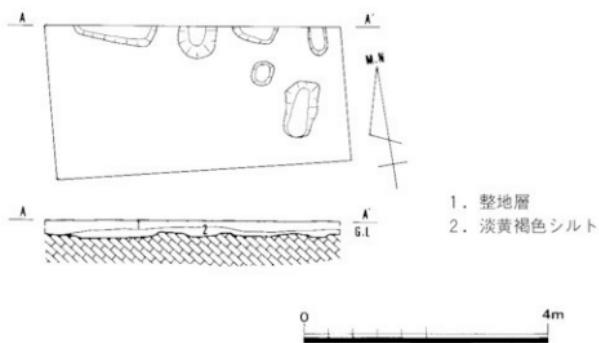
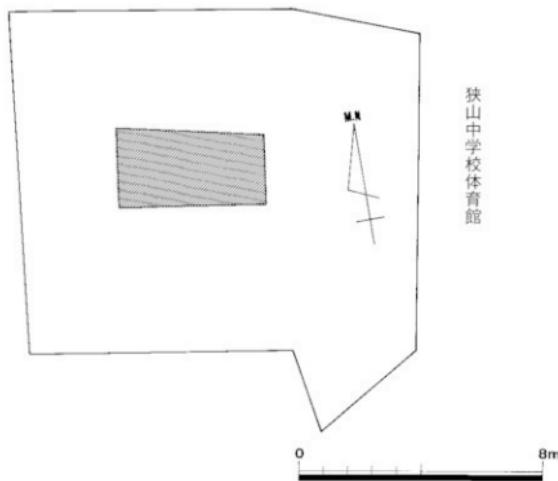


図9 狹山藩陣屋跡02—05区調査区配置図・遺構平面図

道 路

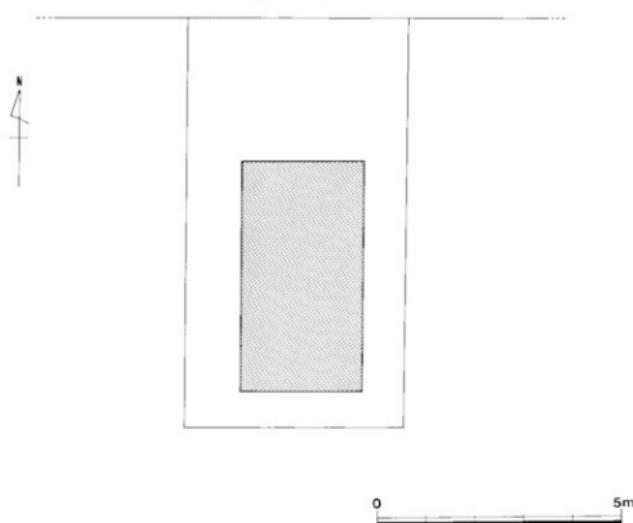


図10 狹山藩陣屋跡02—08区調査区配置図

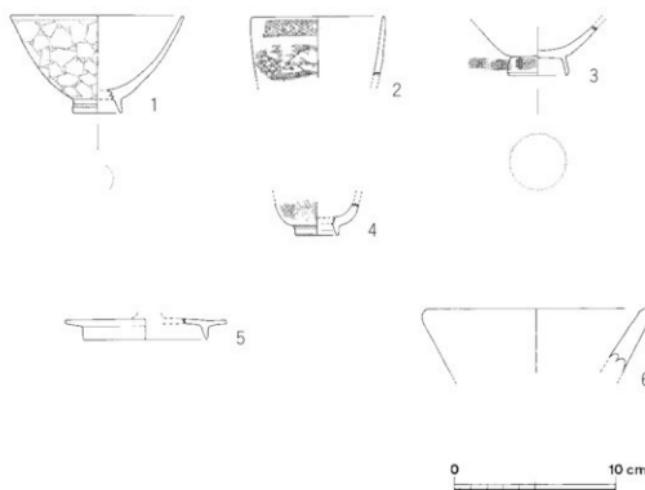


図11 狹山藩陣屋跡02—08区出土遺物

表1 出土遺物觀察表

回収 回数	調査区	造形面	造形・土層	器種	产地	法量(cm)	施釉・文様・技法等	備考
5-1 3-1	SJ02-03	上層造構	造構面直上	磁器・中楕	肥前系	基部径11.0 底径10.6 残存高4.6	染付透明釉・乳白色。内面人物・外面唐草文。高台部文様あり。	18世紀。
5-2 3-2	SJ02-03	上層造構	造構面直上	陶器・中楕	肥前系	基部径5.0 底径4.4 残存高4.3	染付灰褐色。草花文。見込み輪剥げ。	
5-3 3-3	SJ02-03	上層造構	造構面直上	磁器・ミニ チャニア楕	肥前系	口径4.0 基部径1.6 底径1.6 器高2.0	白色釉。	18世紀。
5-4 3-4	SJ02-03	上層造構	清1	磁器・小楕	肥前系	基部径4.0 底径3.6 残存高2.3	染付透明釉・乳白色。	
5-5 3-5	SJ02-03	上層造構	清2	不明		口径6.8 器高1.5	透明釉。内面に指揮さえ痕。	
5-6 3-6	SJ02-03	上層造構	清2	土師質・皿		口径8.4 器高1.4	内面にあまい段あり。	色調：淡白色。胎土：密。焼成：良好。残存：1/4。
5-7 3-7	SJ02-03	上層造構	清2	伝飯器	肥前系	台底径4.2 残存高3.4	染付透明釉・白色。	18世紀。
5-8 3-8	SJ02-03	上層造構	清2	磁器・小楕	肥前系	基部径4.4 底径4.0 残存高3.4	染付透明釉・乳白色。外面草花文。高台底部「大明年製」。	18世紀。
5-9 3-9	SJ02-03	上層造構	清2	磁器・小楕	肥前系	高台径3.4 残存高2.6	染付透明釉・白色。外面草花文。高台底部「珠」。	
5-10 3-10	SJ02-03	上層造構	清2	土師質・不 明土製品		幅3.0 残存高3.1	表面に浮き出したの文字あり。 裏面に指揮さえ痕あり。	色調：褐色。胎土：密。焼成：良好。
5-11 3-11	SJ02-03	上層造構	清3	磁器・中楕	肥前系	口径9.6 基部径4.0 底径3.4 残存高5.0	染付透明釉・乳白色。外面コニャック印押菊文。手描き草花文。	18世紀。
5-12 3-12	SJ02-03	上層造構	土坑5	陶器・筒形 茶碗	肥前系	口径8.0 高台径4.7 器高6.7	染付透明釉。外面口縁雲文。 外側側面コニャック印押人物 と手描き蝶文。内面直貫人。	
5-13 3-13	SJ02-03	上層造構	柱穴2	陶器・行平 鍋把手	瀬戸美濃系		型合+貼付。人物浮彫。	色調：灰色。残存：把手上部 1/2。
5-14 3-14	SJ02-03	下層造構	包含層	磁器・中楕	肥前系	口径20.0 高台径9.6 器高5.6	染付透明釉。見込み五弁花。 内面風景・菊文。高台底部 「大明〇〇年製」	残存：1/3。18世紀。
5-15 3-15	SJ02-03	下層造構	包含層	磁器・水滴	肥前系	口径6.0 器高2.0	上部菊花文。	色調：白色。胎土：密。焼成： 良好。残存：1/2。
5-16	SJ02-03	下層造構	包含層	磁器・中楕	瀬戸美濃系	口径9.2 基部径4.2 底径4.0 器高4.2	染付透明釉・乳白色。外面 ススキ文。菊花。見込み重 輪。	19世紀。
5-17 3-17	SJ02-03	下層造構	包含層	磁器・中楕		口径10.5 高台径4.2 器高5.3	5-14と同一。	残存：1/3。18世紀。
5-18 3-18	SJ02-03	上層造構	土坑8	土師質・土 人形(天神 像)		幅3.0 残存高4.5 厚さ1.5	前後型合わせ。	底部穿孔。18世紀。

図面 図版	調査区	造構面	造構・土層	器種	产地	法蓋(cm)	施釉・文様・技法等	備考
6-19 4-19	SJ02-03	上層造構	溝2	焰部・搖跡	信楽か?	口径18.6 残存高11.0	内面飾目。口縁内面に刻印あり。	色調：赤褐色。胎土：長石をやや多く含む。17世紀。
6-20 3-20	SJ02-03	下層造構	土坑2	土師質・土鉢		残存高4.8	手づくね。	イチジク形。色調：褐色。胎土：密。焼成：良好。
6-21 4-21	SJ02-03	上層造構	溝2	土師質・培塿	等	口径31.6 残存高7.3	体部外面、回転ヘラ削り調整。他は回転ナダ調整。	色調：褐色。胎土：密。焼成：良好。残存：口縁の1/5。18世紀。
6-22 4-22	SJ02-03	上層造構	溝2	焰部・搖跡	備前	口径33.4 底径16.0 高さ12.6	内面飾目。	口縁帶3段。色調：赤褐色。18世紀。
6-23 4-23	SJ02-03	下層造構	包含層	焰部・搖跡	等	口径33.4 底径16.0 高さ12.6	内面飾目。	色調：赤褐色。胎土：長石多く含む。18世紀。
6-24 4-24	SJ02-03	下層造構	土坑1	土師質・培塿	等	口径37.4 残存高5.3	外面、回転ヘラ削り調整のち回転ナダ調整。他は回転ナダ調整。	口縁部に把手あり。色調：褐色。胎土：密。焼成：良好。残存：口縁の1/5。17世紀。
8-1 5-1	SJ02-04	整地層・上層包含層	磁器・小碗	肥前系	高台径4.0 残存高3.2		染付透明釉。草花文。高台底部「大明年製」。	18世紀。
8-2 5-2	SJ02-04	整地層・上層包含層	磁器・小杯	肥前系	口径5.6 高さ3.4		透明釉。	残存：1/5以下。18世紀。
8-3 4-3	SJ02-04	整地層・上層包含層	磁器・小碗	肥前系	口径7.8 底径3.8 高さ7.8		染付透明釉。	残存：1/4以下。18世紀。
8-4 4-4	SJ02-04	整地層・上層包含層	磁器・中碗	肥前系	口径10.4 基部径4.4 底径4.0 残存高5.4		染付透明釉。扇面文様。高台裏に印あり。	18世紀。
8-5 4-5	SJ02-04	整地層・上層包含層	磁器・小碗	肥前系	基部径3.8 底径3.6 残存高3.7		染付透明釉・白色。外側竹文。	18世紀。
8-6 5-6	SJ02-04	整地層・上層包含層	陶器・椀	肥前系	高台径4.2 残存高2.3		内外面、白泥・鉄釉。	17世紀。
8-7 4-7	SJ02-04	整地層・上層包含層	磁器・茶碗		口径6.4 底径5.6 高さ8.1		染付透明釉・白色。外側山水。底部吹灰。	18世紀。
8-8 4-8	SJ02-04	整地層・上層包含層	磁器・中碗	肥前系	口径10.2 高台径4.4 高さ7.0		染付透明釉。網目文1重。	残存：1/2。18世紀。
8-9 4-9	SJ02-04	整地層・上層包含層	磁器・中碗	肥前系	高台径3.8 残存高4.5		染付透明釉。網目文1重。	残存：1/3。18世紀。
8-10 4-10	SJ02-04	整地層・上層包含層	磁器・椀	肥前系	口径10.0 高台径3.6 高さ5.5		染付透明釉。扇面文様。高台部裏に印刷。8-4に同じ。	残存：1/10以下。18世紀。
8-11 5-11	SJ02-04	整地層・上層包含層	焰部・壺	丹波系	底径11.0 残存高8.5			色調：赤褐色。18世紀。
8-12 5-12	SJ02-04	整地層・上層包含層	焰部・壺	丹波系	口径20.4 残存高5.1		鉄釉。	18世紀。

画面 図版	調査区	遺構面	遺構・土層	器種	产地	法量(cm)	施釉・文様・技法等	備考
8-13 5-13	SJ02-04		整地層・上 層包含層	土師質・壇塔	壇	口径27.8 器高4.8		色調：褐色。胎土：密。焼成： 良好。残存：L5以下。18世紀。
8-14 4-14	SJ02-04		整地層・上 層包含層	磁器・小皿	肥前系	口径14.5 高台径6.0 器高3.4	染付透明釉。内面：器内四方帶 文。見込み幾何文様あり。外 面：花文。高台面2条線。	残存：L3。18世紀。
8-15 5-15	SJ02-04	上層遺構	溝1	土師質・皿		口径11.8 器高2.0	回転ナデ調整。	色調：淡灰色。胎土：密。燒 成：良好。残存：L5以下。
8-16 5-16	SJ02-04	上層遺構	溝1	土師質・皿		口径13.4	器高2.5	回転ナデ調整。
8-17 5-17	SJ02-04	上層遺構	溝1	磁器・小皿	肥前系	口径12.2 底径6.6 器高2.7	染付透明釉・白色。外面花 文。	色調：灰褐色。胎土：密。燒 成：良好。残存：L10以下。燒 付着。
8-18 5-18	SJ02-04	上層遺構	土坑1	陶器・小皿	京都	口径12.2 器高3.9	色絵の上絵付け。透明釉の ち貫入。	残存：L10以下。18世紀。
7-19 5-19	SJ02-04	上層遺構	土坑1	土師質・皿		口径10.4 器高1.9	回転ナデ調整。	色調：黒色。胎土：やや粗。燒 成：良好。焼付着。
7-20 5-20	SJ02-04	上層遺構	土坑1	土師質・皿		口径10.4 器高1.8	回転ナデ調整。	色調：黒色。胎土：やや粗。燒 成：良好。焼付着。
7-21 5-21	SJ02-04	上層遺構	土坑1	土師質・皿		口径10.2 器高1.7	回転ナデ調整。	色調：灰色。胎土：密。燒成： 良好。残存：L8以下。
7-22 5-22	SJ02-04	上層遺構	土坑1	土師質・皿		口径11.6 器高2.1	回転ナデ調整。	色調：淡黄色。胎土：やや粗。 燒成：良好。
7-23 5-23	SJ02-04	上層遺構	土坑1・土 坑2	磁器・小椀		口径7.6 残存高5.5	染付透明釉・白色。内外面 文様あり。	残存：L10以下。18世紀。
7-24 SJ02-04	上層遺構	土坑3	陶器・小皿			高台径6.2 残存高2.7	緑釉。	
7-25 SJ02-04	上層遺構	土坑3	埴輪・搖蹄			口径28.2 底径14.5 器高11.4	内面、見込み・撋目。	L1绿带3段。色調：赤褐色。
7-26 5-26	SJ02-04	上層遺構	土坑2	軒丸瓦		径13.4 厚1.8	左巻三巴。連珠12。	色調：灰色。胎土：密。燒成： 良好。
11-1	SJ02-08		整地層	磁器・中碗	肥前系	口径10.8 高台径3.0 器高6.0	染付透明釉。外面永翠文。	残存：L6。19世紀。
11-2	SJ02-08		整地層	磁器	肥前系	口径8.4 残存高3.8	染付透明釉。綠外四方帶。	19世紀。
11-3	SJ02-08		整地層	磁器・壺		基部径3.4 脚底径3.6 残存高3.0	染付透明釉・白色。	19世紀。
11-4	SJ02-08		整地層	磁器・壺	肥前系	高台径2.6 残存高2.0	染付透明釉。外面：草花文。	18世紀。
11-5	SJ02-08		整地層	陶器・土瓶蓋	瀬戸美濃系	口径(外径)10.2 口径(内径)7.6 残存高1.3	染付透明釉。	
11-6	SJ02-08		整地層	磁器		口径13.6 残存高4.0	透明釉・白色。	

2. 陶邑窯跡群

陶器山42号窯(MT42)

本調査区は山本東3番22に所在する。当該地は高位段丘の東向き斜面に立地している。陶器山42号窯がこの斜面に遺存していることは、『狹山町史』本文編にある「梶ヶ浜窯」の記述、斜面裾で実施された関西大学による試掘調査の伝聞などによって把握していたが、遺存場所の正確な特定はできなかった。宅地造成の開発用地約4,900m²の範囲内は急傾斜の部位もあり、全城を一度に調査することは困難であったため、1996年から、重機の進入が可能となった部位において、事前発掘調査を断続的に実施してきた。本年度も斜面上方で事前発掘調査を実施したが、斜面裾で施工が予定されていたコンクリート擁壁部分については、施工時に立会調査をおこなうこととした。擁壁工事開始の連絡を受けて現地へ赴いたところ、すでに擁壁設置のための斜面裾の掘削がかなり進行しており、斜面裾の住宅南側において、須恵器片を含んだ暗灰色の灰土層がなかば削平されつつあった。急遽、工事の一時中断を要請して現場工事の担当者および作業員に助力を依頼し、立会調査によって記録保存を実施した。

残存していた灰層の広がりは南北11.3m・東西2.6mの範囲で認められ、その厚さは18cm以下であった。また、灰層は北西側で斜面の盛土下へとのびていたが、この箇所では掘削をおこなわないとのことであったので、断面写真を撮影するにとどめた。なお、この灰層は、明灰色粘土の地山直上に層位するが、須恵器以外にも現代のガラス片やプラスチック片を含んでおり、窯の操業にともなう灰原ではなく、灰原が現代の搅乱を受けて2次堆積したものと理解される。

灰層からは、須恵器杯蓋・杯身・高杯・壺の破片が出土した。その総量はコンテナ1箱分であるが、図化不能であるものが多く、本報告では27点を図示するにとどまった。

これらの須恵器のうち、杯身の法量はTK47集中域からMT15集中域にかけて分布する数値を示すものであり、その杯身のたちあがり高とたちあがり角度も、TK47分布域からMT15分布域にわたって分布する数値を示している。また、壺の内面の同心円タタキは、すり消しを施したものとそうでないものが混在する。これらの要素から、この灰層がMT42号窯単体で短期間の操業によって生産された須恵器を包含していると仮定するならば、陶邑田辺編年のTK47型式～MT15型式、あるいはその経過型であるTK85型式に併行する窯跡資料であると評価することができる。

5世紀末から6世紀前葉の窯跡資料は、本市域においていまだ少ない。当該調査地点の北側では、灰原およびその2次堆積層が遺存している可能性もあるため、住宅建て替えなどの再開発時には、その記録保存を実施するために充分な注意を必要とする。

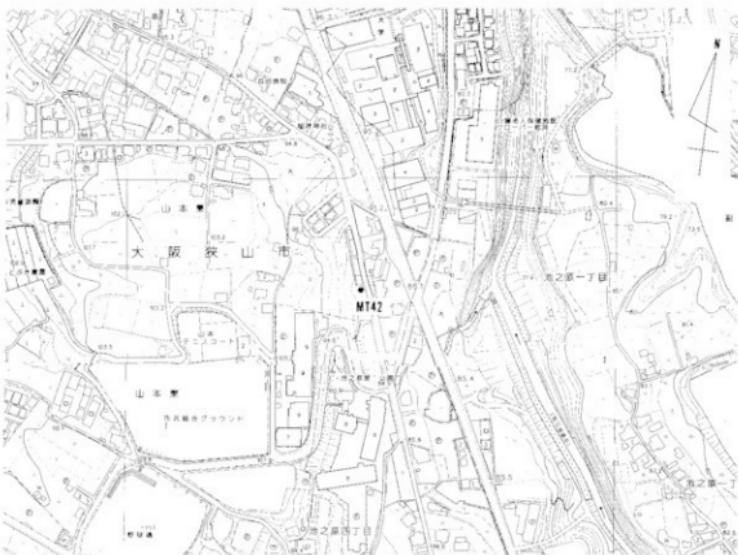


図12 陶邑窯跡群陶器山42号窯立会調査地点位置図

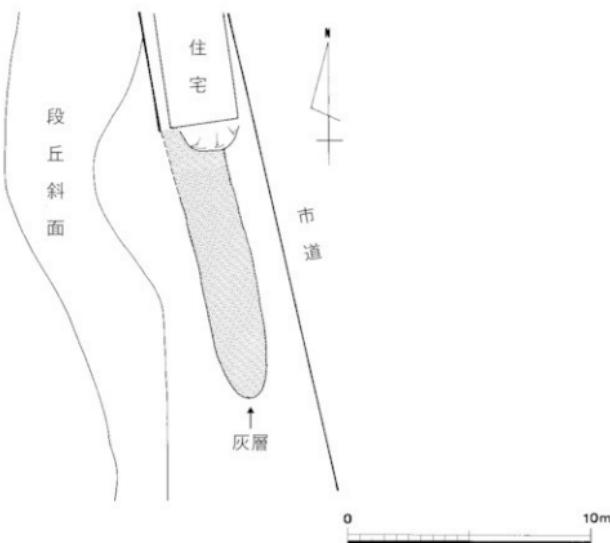


図13 陶器山42号窯灰層の散布域

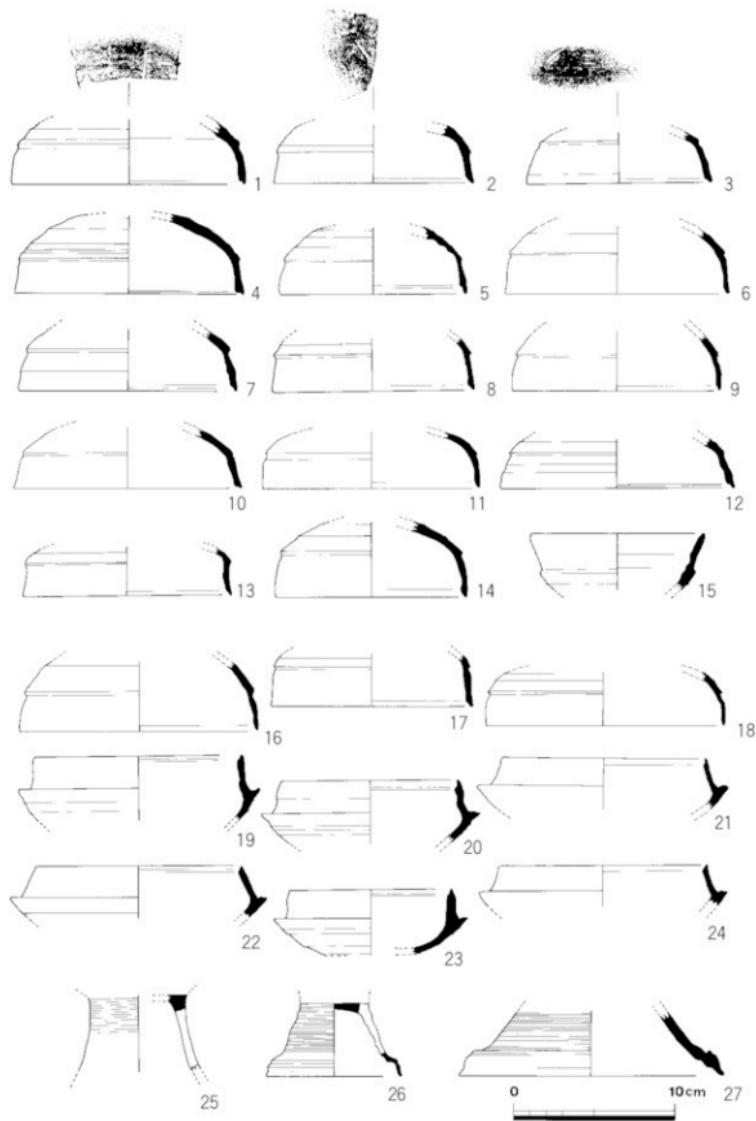


圖14 陶器山42號窯（MT42）灰層出土遺物

表2 MT42号窯出土遺物観察表

器種	図面 図版	法量(cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
杯蓋	14-1 7-1	口径14.4 残存高3.8	体部・口縁部はやや内傾して下外方に下る。端部は内面で内傾する段を成す。棱は短く非常に鋭い。天井部中央欠損。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面4/5、回転ヘラ削り調整。他は回転ナダ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：灰色。胎土：密。2mm以下の長石を若干含む。焼成：良好。残存：1/10。反転復元。ヘラ記号：天井部外面にあり。
杯蓋	14-2 7-2	口径12.6 残存高3.6	体部・口縁部は下外方に下る。端部は内面で内傾する平曲を成す。棱は鋭く鋭い。天井部は低い。天井部中央欠損。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面3/4、回転ヘラ削り調整。他は回転ナダ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：灰青色。胎土：密。2mm以下の長石を若干含む。チャートを含む。焼成：良好。残存：1/10以下。反転復元。ヘラ記号：天井部外面にあり。
杯蓋	14-3 7-3	口径11.6 残存高3.2	体部・口縁部は下外方に下る。端部は内面で内傾するあまい段を成す。棱は短く鋭い。天井部は低い。天井部欠損。	マキアゲ、ミズビキ成形。 回転ナダ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：灰色。胎土：密。1mmの長石をわずかに含む。焼成：良好。残存：1/10以下。反転復元。ヘラ記号：天井部外面にあり。
杯蓋	14-4 7-4	口径14.4 残存高4.9	体部・口縁部は下外方に下る。端部は内面でやや内傾する段を成す。棱は鋭く鋭い。天井部はやや低くやえい。天井部中央欠損。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面4/5、回転ヘラ削り調整。他は回転ナダ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：灰色。胎土：密。1mmの長石を含む。チャートを含む。焼成：良好。残存：1/10以下。反転復元。体部外面に自然釉付着。
杯蓋	14-5 7-5	口径11.6 残存高4.1	体部・口縁部は下外方に下る。端部は内面で内傾する段を成す。棱は短く鋭い。天井部はやや低くやえい。天井部中央欠損。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面4/5、回転ヘラ削り調整。他は回転ナダ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：暗灰青色。胎土：密。焼成：良好。残存：1/15。反転復元。内面灰かぶり。外面上自然釉付着。体部外面に窓型片接着。
杯蓋	14-6 7-6	口径13.8 残存高4.1	体部・口縁部は下方に下る。端部は内面で内傾する平面をわずかに成す。棱は短く鋭い。天井部は低い。天井部中央欠損。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面2/3、回転ヘラ削り調整。他は回転ナダ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：灰色。胎土：密。チャートを含む。焼成：良好。残存：1/10以下。反転復元。
杯蓋	14-7 7-7	口径13.6 残存高3.8	体部・口縁部は下外方に下る。端部は内面で内傾する段を成す。棱はやや短く鋭い。天井部は低い。天井部中央欠損。	マキアゲ、ミズビキ成形。 回転ナダ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：灰青色。胎土：密。チャートを含む。焼成：良好。残存：1/7以下。反転復元。内面灰かぶり。外面上自然釉付着。

器種	因面 因版	法量(cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
杯蓋	14-8 7-8	口径12.6 残存高3.3	体部・口縁部は下外方に下る。端部は内面で内傾する平面を成す。棲は断面三角形を成し、短くやや鈍い。天井部欠損。	マキアゲ、ミズビキ成形。 回転ナダ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：内-灰色、外-暗青色。胎土：密。1mmの長石を含む。焼成：良好。残存：1/10以下。反転復元。
杯蓋	14-9 7-9	口径12.8 残存高3.6	体部・口縁部はやや外傾して下外方に下る。端部は内面で内傾する平面を成す。棲は短く鈍い。天井部欠損。	マキアゲ、ミズビキ成形。 回転ナダ調整。	色調：灰色。胎土：密。チャートを含む。焼成：良好。残存：1/10以下。反転復元。内外面に自然釉付着。
杯蓋	14-10 7-10	口径14.0 残存高3.7	体部・口縁部は下外方に下る。端部は内面でやや内傾する凹面を成す。棲は短く非常に鈍い。天井部中央欠損。	マキアゲ、ミズビキ成形。 回転ナダ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：灰色。胎土：密。チャートを含む。焼成：良好。残存：1/10以下。反転復元。
杯蓋	14-11 7-11	口径13.6 残存高3.5	体部・口縁部は下方に下る。端部は内面で内傾する平面を成す。棲は短く非常に鈍い。天井部中央欠損。	マキアゲ、ミズビキ成形。 回転ナダ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：灰色。胎土：密。チャートを含む。焼成：良好。残存：1/10以下。反転復元。内外面に自然釉付着。
杯蓋	14-12 7-12	口径14.6 残存高3.1	体部・口縁部は下外方に下る。端部は内面で内傾する段成す。棲は短く鈍い。天井部中央欠損。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面9/10、回転ヘラ削り調整。他の回転ナダ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：内-灰青色、外-暗青色。胎土：密。3mm以下の長石を若干含む。焼成：チャートを含む。焼成：良好。残存：1/8。反転復元。外面に自然釉付着。
杯蓋	14-13 7-13	口径13.0 残存高3.0	体部・口縁部はやや外傾して下方に下る。端部は内面で内傾する平面を成す。棲は短く鈍い。天井部中央欠損。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面4/5、回転ヘラ削り調整。他の回転ナダ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：灰色。胎土：密。1mmの長石を若干含む。チャートを含む。焼成：良好。残存：1/10以下。反転復元。
杯蓋	14-14 7-14	口径11.8 残存高4.7	体部・口縁部は下方に下る。端部は内面で内傾する平面を成す。棲は短く鈍い。天井部中央欠損。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面3/5、回転ヘラ削り調整。他の回転ナダ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：暗灰色。胎土：密。1mmの長石を若干含む。1mmの石英をわずかに含む。チャートを含む。焼成：良好。残存：1/10以下。反転復元。内面・天井部外面に自然釉付着。

器種	図面 図版	法量(cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
高杯	14-15 7-15	口径10.8 残存高3.5	杯部口縁はやや外側で上外方にのび、端部は丸い。底部・口縁部境界の棱は短く鈍い。底部以下欠損。	マキアゲ。ミズビキ成形。杯底部外周、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	クロロ回転：右方向。色調：灰色。胎土：密。2mm以下の長石を若干含む。チャートを含む。焼成：良好。残存：杯部1/5。反転復元。
杯蓋	14-16 7-16	口径14.8 残存高4.4	体部・口縁部は下外方に下る。端部は内面で内傾する非常にあまい段を成す。棱は短く鈍い。天井部中央欠損。	マキアゲ。ミズビキ成形。天井部外周2/3、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	クロロ回転：右方向。色調：灰色。胎土：密。チャートを含む。焼成：良好。残存：1/10以下。反転復元。外灰かぶり。
杯蓋	14-17 7-17	口径12.6 残存高3.3	体部・口縁部は下方に下る。端部は内面で内傾する非常にあまい段を成す。棱は短く鈍い。天井部欠損。	マキアゲ。ミズビキ成形。天井部外周9/10、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	クロロ回転：右方向。色調：灰褐色。胎土：密。チャートを含む。焼成：不良。残存：1/10以下。反転復元。
杯蓋	14-18 7-18	口径14.6 残存高3.4	体部は下外方に下り、口縁部はほぼ直立に下る。端部は内面で内傾する平面を成す。棱は短く鈍い。天井部中央欠損。	マキアゲ。ミズビキ成形。天井部外周6/7、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	クロロ回転：右方向。色調：灰色。胎土：密。チャートを含む。焼成：良好。残存：1/10以下。反転復元。
杯身	14-19 8-19	口径13.0 受部径15.0 残存高4.0 T高2.0 T角度 14° 45'	たちあがりは基部より上方にのびる。端部は丸く、内面であまい段を成す。受部は上外方にのび、端部はやや丸い。底部欠損。	マキアゲ。ミズビキ成形。底部外周、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	クロロ回転：右方向。色調：内・たちあがり外面:灰色、底外部外面:暗灰色。胎土：密。チャートを含む。焼成：良好。残存：1/10以下。反転復元。外部外面に自然釉付着。
杯身	14-20 8-20	口径11.0 受部径13.6 残存高3.9 T高2.0 T角度 18° 00'	たちあがりは内傾したのち、中位で上方にのびる。端部はやや丸く、内面で段を成す。受部は外上方にのび、端部は丸い。底部欠損。	マキアゲ。ミズビキ成形。底部外周、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	クロロ回転：右方向。色調：暗灰色。胎土：密。チャートを含む。焼成：良好。残存：1/6。反転復元。外部外面に自然釉付着。
杯身	14-21 8-21	口径12.8 受部径15.4 残存高3.2 T高1.8 T角度 21° 30'	たちあがりは内傾してのび、端部はやや丸く、内面で段を成す。受部は外上方にのび端部はやや丸い。底部欠損。	マキアゲ。ミズビキ成形。回転ナデ調整。	色調：灰色。胎土：密。チャートを含む。焼成：良好。残存：1/10以下。反転復元。内面に自然釉付着。

器種	図面 図版	法量(cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
杯身	14-22 8-22	口径12.8 受部径16.0 残存高3.2 T高2.0 T角度 24° 45'	たちあがりは内傾してのび、端部はやや丸く、内面で2段を成す。受部は外上方にのび、端部はやや丸い。底体部欠損。	マキアゲ、ミズビキ成形。底部外面、回転ヘラ削り調整。他の回転ナダ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：淡灰色。胎土：密。1mmの長石を含む。焼成：良好。残存：1/10以下。反転復元。体部外面灰かぶり。
杯身	14-23 8-23	口径10.0 受部径12.0 残存高4.1 T高1.8 T角度 12° 45'	たちあがりは内傾して上方にのびる。端部は丸く、内面で2段を成す。受部は外上方にのび、端部は丸い。底部中央欠損。	マキアゲ、ミズビキ成形。底部外面、回転ヘラ削り調整。他の回転ナダ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：淡灰色。胎土：密。1mmの長石を含む。チャートを含む。焼成：良好。残存：1/8。反転復元。外面に自然釉付着。
杯身	14-24 8-24	口径13.0 受部径15.6 残存高2.5 T高1.6 T角度 20° 00'	たちあがりは内傾してのび、端部はやや丸く、内面で内傾する平面を成す。受部は外上方にのび、端部は丸い。底体部欠損。	マキアゲ、ミズビキ成形。回転ナダ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：灰青色。胎土：密。チャートを含む。焼成：良好。残存：1/10以下。反転復元。
高杯 (脚部)	14-25 8-25	基部径6.3 残存高4.7	脚部より下外方にやや外反して下る。根部欠損。長方形スカシを有する。	マキアゲ、ミズビキ成形。外面、細かいカキ目調整。他の回転ナダ調整。	色調：灰色。胎土：密。2mm以下の長石を含む。チャートを含む。焼成：良好。残存：1/10以下。反転復元。
高杯 (脚部)	14-26 8-26	脚底径10.4 残存高4.5	脚部上方欠損。脚部は下外方に下り、根部で2段を成し、下外方に下る。根部は丸い。2方向に長方形スカシを有する。	マキアゲ、ミズビキ成形。外面、カキ目調整。他の回転ナダ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：灰色。胎土：密。焼成：良好。残存：1/10以下。反転復元。外面に自然釉付着。
不明(脚部)	14-27 8-27	底径16.6 残存高4.0	脚部は下外方に下り。根部で2段を成して下外方に下る。端部は丸い。脚部上半以上欠損。	マキアゲ、ミズビキ成形。脚部外面、カキ目調整。他の回転ナダ調整。	色調：暗灰青色。胎土：密。焼成：良好。残存：1/10以下。反転復元。

ま　と　め

平成14年度はいずれも小規模な調査が中心であり、調査件数も昨年度と比較するとやや少なかったが、出土遺物量は多く、一定の成果が得られたといえよう。

狹山藩陣屋跡では、02-03区・02-04区・02-05区・02-08区で個人住宅建築に伴う発掘調査を実施し、陶邑窯跡群では、陶器山42号窯(MT42)灰原2次堆積層の立会調査を実施した。

狹山藩陣屋跡02-03区・02-04区では藩士邸宅の一部を、02-05区では狹山藩陣屋跡南東端の「南御山」付近を発掘した。02-03区・02-04区では、建物の建て替えに伴う廃棄用の土坑や土地区画等に関連すると思われる溝・柵などを確認した。02-05区で出土した遺構の性格は、出土遺物がないために不明であるが、「狹山藩陣屋上屋敷図」などをみると「南御山」の南東端に「砲台」があったことがわかる。これらの遺構はこうした陣屋の防御施設に関わるものの一端である可能性もある。

陶邑窯跡群陶器山42号窯(MT42)では、現代の搅乱を受けて再堆積していた灰層を確認した。この灰層に含まれる須恵器は、非常に細かい破片が多くかったものの、遺物整理を実施した結果、5世紀末～6世紀前葉に生産されたものと判断された。大阪狹山市域西半部では、6世紀中葉以前の須恵器窯がいまだ未調査のまま遺存しているものもあると考えられるが、既存の調査成果は多くない。このため、今回の立会調査によって得られた資料は、本市域においては有用な窯跡資料といえよう。ところで、この窯跡の灰原がどのような広がりを持っていたのかは、今後の開発に伴う調査時に確認する必要がある。また、そうした際に、たとえ搅乱された灰層しか確認できなかつたとしても、出土遺物を記録保存すれば、今回の出土遺物と合わせて、さらに有用な窯跡資料となりうるであろう。

報 告 書 抄 錄

ふりがな	おおさかさやましないいせきぐんはつくつちょうさがいようほうこくしょ13						
書名	大阪狭山市内遺跡群発掘調査概要報告書13						
副書名							
シリーズ名	大阪狭山市文化財報告書						
シリーズ番号	28						
編著者名	植田隆司						
編集機関	大阪狭山市教育委員会						
所在地	〒589-0011 大阪府大阪狭山市狭山1丁目2384-1 T E L . 072-366-0011						
発行年月日	西暦 2003年3月31日						
所取遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査区	調査面積 m ²
		市町村	遺跡番号				
さやまほんじんやあと 狭山藩陣屋跡	おおさかふ おおさかさやましきやま 大阪府 大阪狭山市狭山	27231	—	34度	135度	02-03	18.4
				30分	33分	02-04	16.2
				18秒	26秒	02-05	12.0
						02-06	17.5
すえむらようせきぐん 陶邑窯跡群 (MT42)	おおさかふ おおさかさやましまもとひがし 大阪府 大阪狭山市山本東	27231	—	34度	135度	MT42	29.3
				20分	32分		
				21秒	42秒	02-01	
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
狭山藩陣屋跡	城館跡	江戸時代	02-03区 溝・土坑・ビット ・杭列	02-03区 磁器(椀・皿・水滴) ・陶器椀・擂鉢・ 土師質(皿・焙烙・ 土人形・土鈴)			
			02-04区 溝・土坑・ビット	02-04区 磁器(椀・杯・皿・灰吹) ・陶器椀・陶器壺・ 擂鉢・土師質(皿・ 焙烙)・軒丸瓦			
			02-05区 土坑・杭痕	02-05区 磁器(椀・盃)・ 陶器土瓶蓋			
陶邑窯跡群 陶器山42号窯 MT42	生産遺跡	古墳時代中期 ～後期（5世紀末葉～ 6世紀前葉）	灰原2次堆積層	須恵器(杯身・杯蓋・高杯・壺・壺)	立会調査		

図 版



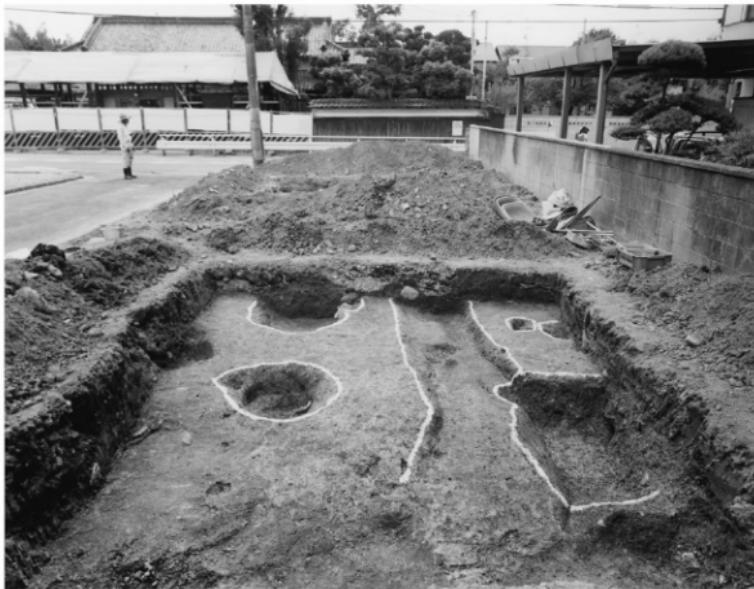
a. 北東から



b. 西から



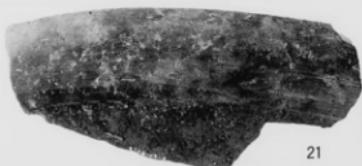
a. 02-03区 下層遺構



b. 02-04区 東から



02-03区



21



24



19



22



23

02-04区



8



9



4



3



7



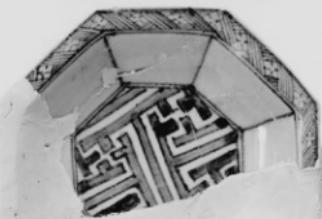
10



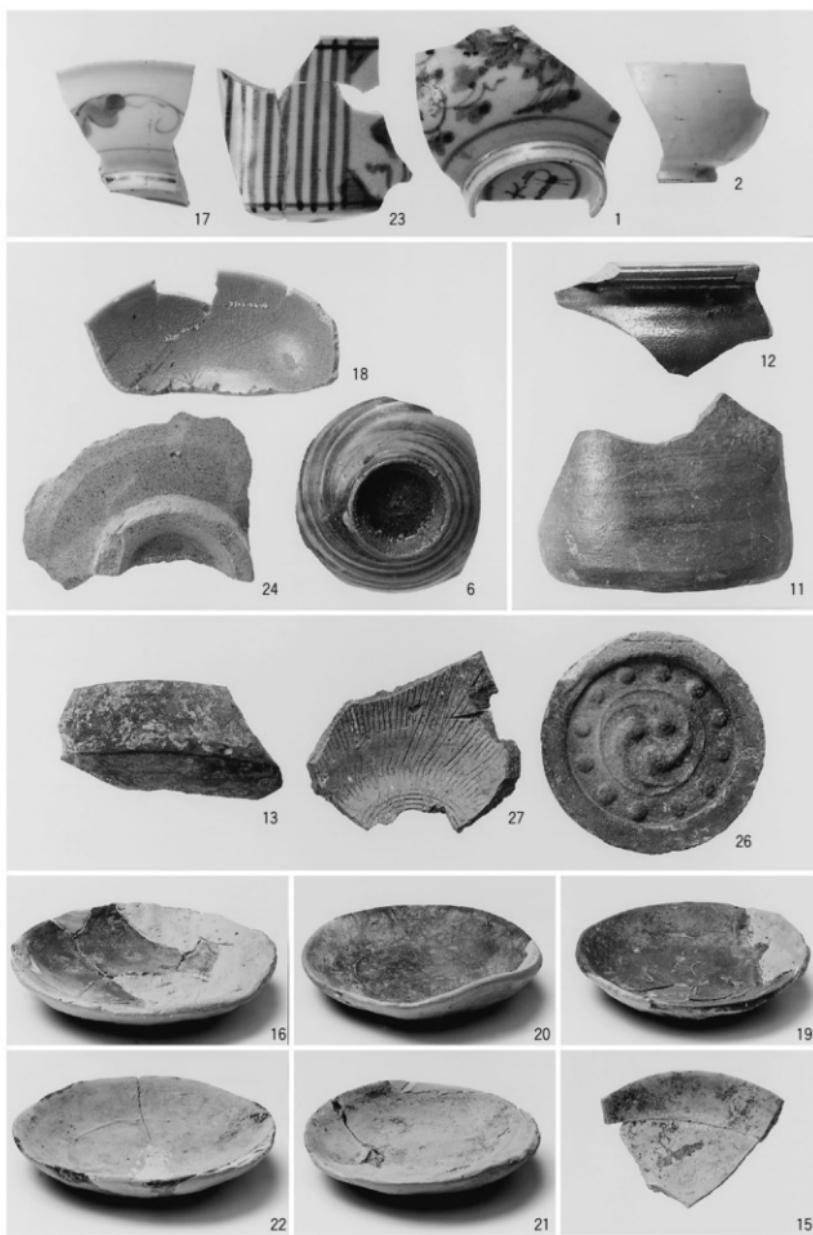
5



—



14





a. 灰層の広がり

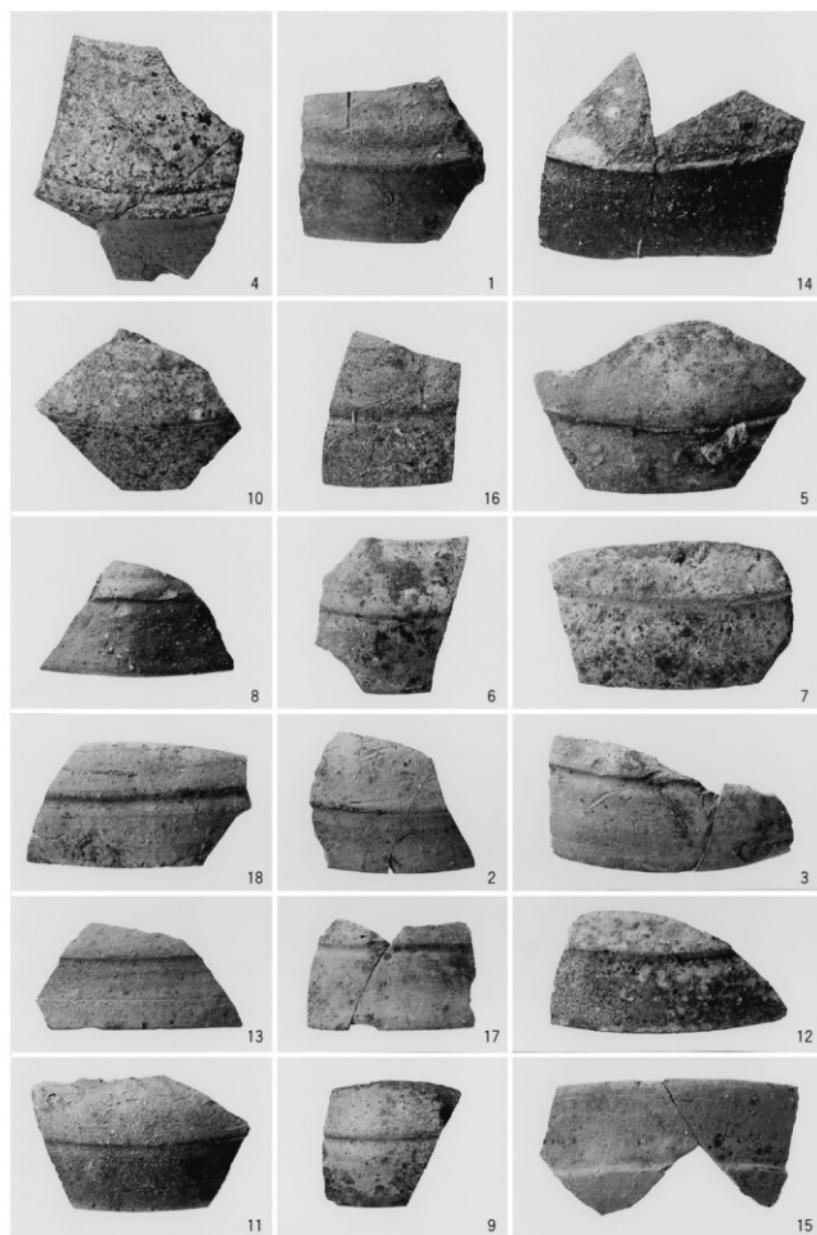


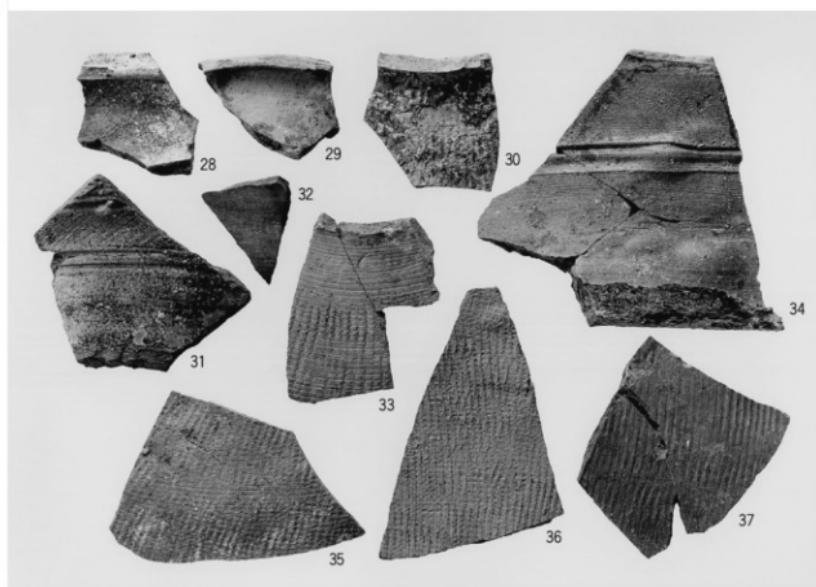
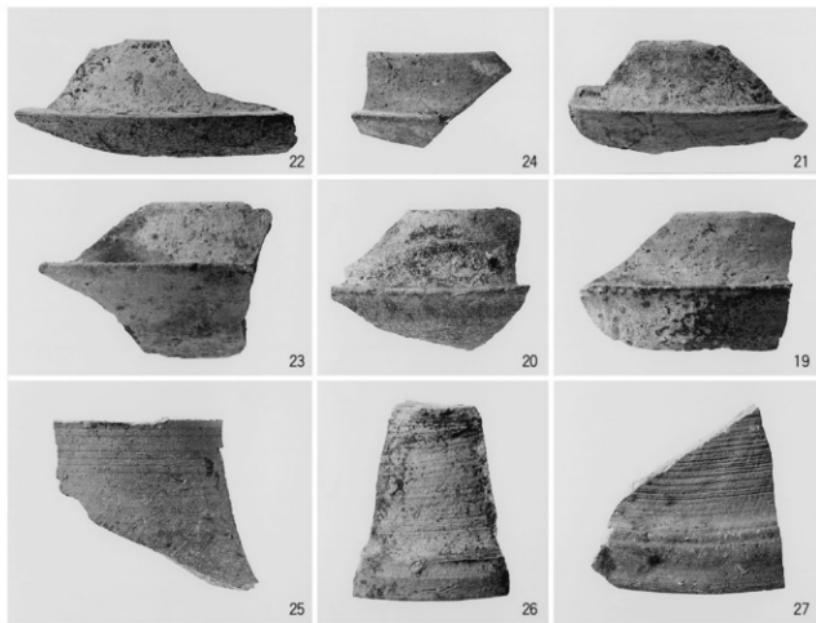
b. 出土状況



c. 灰層断面

圖版 7
陶色窯跡群
陶器山 42 号窯
(MT 42)
灰層出土遺物
(1)





大阪狭山市文化財報告書28

大阪狭山市内遺跡群発掘調査概要報告書 13

発 行 日 平成15年(2003年)3月31日

編集・発行 大阪狭山市教育委員会

大阪府大阪狭山市狭山一丁目2384番地の1

印 刷 橋本印刷株式会社

奈良県北葛城郡當麻町竹内365番地1号